2025年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生選考試験

学科試験　問題

(専修学校留学生)

日　本　語

注意　☆ 試験時間は１００分

☆ 答えは全て答案用紙に記入すること。

(2025)

日本語

国籍 Nationality		番号 No.		点数 Marks	
氏名 Name	(フルネームを書いて、姓に下線を引くこと。 Please print your full name, underlining your family name.)				

問　題

Ⅰ ＿＿＿＿に 入る 一ばん てきとうな ものを A～Dの 中から 一つ えらびなさい。

（例） わたしは 日本語＿＿＿＿ 勉強しています。 A が　　B を　　C に　　D へ

1 この ナイフは パンを 切る＿＿＿＿ つかいます。
A には　B のに　C でも　D にも

2 1時に なったら、ここで ＿＿＿＿ バスを まってください。
A ならべて　B ならって　C ならびて　D ならんで

3 インターネットで レストランを ＿＿＿＿しました。
A よてい　B つごう　C よやく　D ぐあい

4 この ＿＿＿＿を かぶってみても いいですか。
A ゆびわ　B ぼうし　C めがね　D てぶくろ

5 友だちが 私の 日本語の まちがいを ＿＿＿＿ くれました。
A なおって　B なおられて　C なおして　D なおされて

6 来週までに提出すると約束した＿＿＿＿、間に合うかどうか自信がない。
A ものの　B のもかまわず　C ところ　D ものなら

7 運動好きの山田さんは、暇＿＿＿＿あれば、どこでも体を動かしている。
A ばかり　B さえ　C だけ　D しか

8 山田さんは有名な先生＿＿＿＿柔道を学んだそうだ。
A のもとで　B をもとに　C に対して　D からすると

9　この祭(まつ)りはもう終(お)わったから、壁(かべ)のポスターを_____捨(す)てておいてください。

A　はがして　　B　ほどいて　　C　ぬって　　D　ちらかして

10　この四年間(よねんかん)は大変(たいへん)なこともあったが、_____大学(だいがく)を卒業(そつぎょう)することができた。

A　どうか　　B　どうせ　　C　なんとか　　D　なんとも

11　私たちは貧しい_____楽しく生活してきた。

A　によらず　　B　ながらも　　C　ともかく　　D　がてら

12　彼は大学に合格_____、寝食を惜しんで猛勉強に励んだ。

A　せんがために　　B　いかんでは　　C　たるものの　　D　するもなにも

13　初心者_____、最低限のルールは知っているはずだ。

A　とばかりに　　B　と思いきや　　C　である手前　　D　といえども

14　試験監督は試験の終了時刻を一秒_____間違えてはならない。

A　にたえず　　B　こそ　　C　たりとも　　D　かぎり

15　駅前で地震の被災者を助けるための寄付を_____いた。

A　つたって　　B　つねって　　C　つのって　　D　つまんで

Ⅱ ＿＿＿＿と 一ばん かんけいが ある ものを A～Dの 中から 一つ えらびなさい。

（例） けさ コーヒーを のみました。

A きょうの あさ

B きょうの ゆうがた

C きのうの あさ

D きのうの ゆうがた

1 雨が ふっても 試合は 中止しません。

A はれの ときだけ 試合を します

B 雨の ときしか 試合を 中止しません

C 雨の ときも 試合を します

D 雨の ときだけ 試合を 中止します

2 私は 友だちに 1時間も またされました。

A 友だちは 1時間 早く 来ました

B 友だちは 1時間 おくれました

C 私は 友だちに 「1時間 まってください」と 言いました

D 友だちは 私を 1時間 まちました

3 「おやすみなさい。」

A 今から ごはんを 食べます。

B 今から 家を 出ます。

C 今 起きました。

D 今から ねます。

4 山田さんは さっき 帰りました。

A 午後に　B すこし前に　C 午前に　D だいぶ前に

5　ほとんどの　学生が　学校を　休みませんでした。

A　学校に　来なかった　学生は　あまり　いませんでした

B　たくさんの　学生が　学校に　来ませんでした

C　半分ぐらいの　学生が　学校に　来ませんでした

D　学校に　来た　学生は　あまり　いませんでした

6　先日の山火事で、住む場所をうしなった動物たちが町に出てくるようになった。

A　ならした　　B　ながした　　C　ながめた　　D　なくした

7　読んでいる途中の本をここに置いておいたんですが、見かけませんでしたか。

A　読みきった本　　B　読むほかない本

C　読みかけの本　　D　読みがちの本

8　このレストランは、「安くておいしい」という評判だ。

A　うわさ　　B　契約　　C　サービス　　D　でたらめ

9　私は自然が多い村で育ったので、子どもの頃はよく山や川で遊んだ。

A　あらたな　　B　きらくな　　C　てごろな　　D　ゆたかな

10　予定の時間になったので、すぐに会議を始めましょう。

A　うっかり　　B　さっそく　　C　とっくに　　D　じっと

11　会社に入ってからは、嫌なことずくめだった。

A　嫌なことはなくなった　　B　嫌なことはほぼなかった

C　嫌なことは少なめだった　　D　嫌なことばかりだった

12　社長はすべての物事を勝手に決めようとするきらいがある。

A　決めようとする始末である　　B　決めることを嫌っている

C　決めようとして嫌われている　　D　決めようとする傾向がある

13　情報収集に対する熱意は、ジャーナリストにとって欠くべからざる資質である。

A　なくてはならない　　B　なくなることはない

C　ないのはいざ知らず　　D　あるに越したことはない

14　パーティーも終わりに近づき、みんなが名残惜しい気持ちになっていた。

A　もう少しこの場にいたい　　B　時間がもったいない

C　和やかに落ち着きたい　　D　そろそろ帰りたい

15　子どもの頃、親にねだってピアノを買ってもらった。

A　説得されて　B　絶望して　C　頼み込んで　D　急かされて

Ⅲ　＿＿＿のひらがなと同(おな)じ漢字(かんじ)で書(か)くものを A～Dの中(なか)から一(ひと)つ選(えら)びなさい。

（例(れい)）　漢字でかきます。

A　スーパーでかい物をします。

B　今日はかよう日です。

C　今から図しょ館へ行きます。

D　本をよみます。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

漢字で書きます。

A　買い物　B　火よう日　C　図書館　D　読みます

答え．　C

1　台風のため、コンサートはえん期されることになった。

A　小さじ一杯の食えんを水に入れて溶かした。

B　ここから工場のえん突がたくさん見える。

C　高速道路が北へ５０キロほどえん長された。

D　環境問題の専門家による講えん会を開いた。

2　今月から授業の時間割が変こうになった。

A　いつのまにか夜がふけてしまった。

B　作品に手をふれてはいけません。

C　アルバイトをして貯金をふやした。

D　今日は北風が強くふいていた。

3　計画の__だん__階ではうまくいくはずだった。

A　家族とよく相__だん__してから進学先を決めた。

B　今年になって、ガソリンの値__だん__が急に上がった。

C　信号が青になってから、横__だん__歩道を渡りましょう。

D　外国からの__だん__体の観光客で、ホテルは満員だった。

4　__せい__能のよいパソコンが安く売られている。

A　兄は自動車の__せい__備工場で働いている。

B　木材は燃えやすいという__せい__質がある。

C　一度、下書きをしてから__せい__書をしたほうがよいでしょう。

D　作文を書くときは、文章の構__せい__に気をつけなければならない。

5　虫をつかまえて、小さな__よう__器に入れた。

A　この乗り物には、３歳以下の__よう__児は乗れません。

B　田中さんと同__よう__に、私もその意見には反対だ。

C　短期間で日本語をマスターするのは__よう__易ではない。

D　となりの部屋から__よう__気な歌声が聞こえてきた。

6　自分で育てた野菜の味は、__かく__別だった。

A　フグという魚は毒があるので、資__かく__を持った人しか調理できない。

B　彼女の意見は、まさに問題の__かく__心を突いている。

C　京都と奈良では、いろいろな神社や仏__かく__を訪れた。

D　秋になると、全国各地で米が収__かく__される。

7　旅行先で__と__ったビデオを見た。

A　摩__さつ__によって熱が生じる。

B　館内の展示品の__さつ__影が許可された。

C　研究テーマを決めて、考__さつ__した結果をレポートにまとめた。

D　世界地図がカラーで印__さつ__されている。

8　警官は夜の街角で一人の__あや__しい男を見つけた。

A　今となっては、後__かい__しても取り返しがつかない。

B　戦争によって、多くの家や建物が破__かい__された。

C　不審者が入って来ないよう厳重に警__かい__されている。

D　子どもたちは__かい__獣のおもちゃで遊んでいた。

9　肉は腐__はい__が進むと、悪臭がする。

A　プラスチック製品の__はい__止運動が盛んに行われている。

B　先日の総選挙では、与党が__はい__北した。

C　ゴミがたまらないように、__はい__水管の掃除をする。

D　会場の前で整理券が__はい__布されていた。

10　時間をかけて検__とう__しなければならない問題だ。

A　私は毎朝、新聞の__とう__書欄にも目を通している。

B　装飾品には__とう__明なガラスが使われていた。

C　__とう__計による数値から問題を明らかにした。

D　集会所では政治家たちによる__とう__論会が開かれた。

Ⅳ　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えはA～Dの中から最も適当なものを一つ選びなさい。

今日、僕らは眼前に現れた危機、つまり浜に打ち寄せ海洋に堆積する大量のプラスチックゴミ、気候変動によるゲリラ豪雨や巨大台風、極点の氷や氷河の解氷による潮位の変化など、近づきつつある危機の予兆を目の当たりにして、地球という資源の限界に気づき、（Ⅰ）「持続可能性」などという殺伐（さつばつ）とした言葉を口にするようになった。文明は急ブレーキを踏み、大慌てでハンドルを切ろうとしている。確かに必要な反省であり対処であるから、これに異を唱えるつもりはない。しかし、いきなり「地球」という大テーマを口にする前に、人が本来持っているはずの自然や環境への感受性を反芻（はんすう）してはどうだろうか。

さしあたっては「掃除」である。人は掃除をする生き物だ。掃除は誰に教わることなく、あらゆる文化・文明においてそれぞれの方法で行われてきた。

ある仕事で、世界中の掃除の情景を映像として集めたことがある。オペラハウスの客

席の掃除、バイオリン奏者の楽器清掃、教会の窓拭き、公園の落ち葉除去、モスク周辺の街路掃き、バザールの壺磨き、年に一度村をあげて行われるイランの絨毯掃除、万里の長城の掃き掃除、超高層ビルの窓拭き、奈良の東大寺で毎年行われる大仏のお身拭い、水族館の水槽のガラス磨き、動物園の象の身づくろい、普通の家の座敷の掃き掃除、はたき掛け、禅寺の床の雑巾掛け……。

集めた映像を数秒ずつ数珠つなぎに編集して眺めると、不思議と胸が熱くなる。人類は掃除をする生き物なのであるが、（２）なぜヒトは掃除をするのか。ここに何か未来へのヒントがあるように思えてならない。

少し観察してみると、掃除とは、人為と自然のバランスを整える営みであることがわかる。未墾の大地を、自分たちに都合よく整え、都市や環境を構築する動物は人間だけだ。だから自然に対してヒトがなした環境を「人工」という。人工は心地がいいはずだが、プラスチックやコンクリートのように自然を侵食する素材が蔓延してくると、ヒトは自然を恋しがるようになる。「人工」は巨大なゴミなのではないかと気づき始めるのである。

一方、自然はといえば、放っておくと埃や落ち葉が降り積もり、草木は奔放に生い茂る。自然は人を保護するためにあるわけではない。放っておくと荒ぶる姿となって、人の営みを蹂躙する。人が住まなくなった民家の床や畳の隙間からは、瞬く間に草が芽を出し、生い茂り、数年のうちに草木に飲み込まれてしまう。緑を大切に、などという言葉ももはや出ないほど、緑は猛威をふるうのだ。だから人間は、自然をほどほどに受け入れつつ、適度に排除しながら暮らしてきた。おそらくはこれが掃除であり、そのバランスこそ掃除の本質であろう。

こんな風に掃除のことを考えているうちに、再び「庭」に思いが至った。庭、特に（３）日本の庭は、「掃除」すなわち自然と人為の止揚、つまりその拮抗とバランスを表現し続けているものではないかと思ったのである。掃除はもちろん日本だけのものではないが、お茶を飲んだり、花を立てたりという行為を「茶の湯」だの「生け花」だのに仕立てるのが得意な日本人である。住居まわりの環境を整える「掃除」という営みを「庭」という技芸に仕上げたのかもしれない。

住居をつくるにも、人工が勝りすぎるのは野暮。落ち葉は掃きすぎず、草木も刈りすぎず程よく茂るに任せる。まるで、打ち寄せる波が砂浜をあらう渚のように、人為と自然がせめぎ合う「ほどほどの心地よさ」を探し当てること、それが庭の本質である。庭は美的な作為であり創作物と思われているかもしれないが、自然に対するあらゆる人為は、いわば「しでかし」に過ぎない。しかし、そのしでかされた庭に愛着を覚え、これを慈しむ人々が現れて、程よく落ち葉を掃き、苔をととのえ、樹々の枝葉を剪定し、守り続けた結果として「庭」は完成していくのだ。当然、長い時間が必要だが、歳月のみ

が庭を作るわけではない。やはり「人為と自然の波打ち際」が管理され続けることが必須である。

大上段に振りかぶって「地球温暖化対策」とか「持続可能な社会」を考えるのも重要なことだと思うが、歴史の中、文化の中に蓄積され、すでにヒトに内在しているはずの知恵や感受性に気づいてみることも同じくらい重要なのではないか。

海外の旅を終えて（４）日本の国際空港に降り立つときに、いつも感じることは、とてもよく掃除されていることである。空港の建築は、どこも質素で味気ないが、掃除は行き届いている。床にシミひとつないというような真新しさではなく、仮にシミができても、丹念に回復を試みた痕跡（こんせき）を感じる。そういう配慮が隅々に行き届いている空気感がある。

おそらく、日本のラグジュアリーの要点には掃除がある。ただ単に、磨きあげるのではなく、自然や草木といったものに心を添わせつつ、生きている者としての張りを感じていること。石や木、漆喰（しっくい）や畳といった素材に気持を通わせつつ、その自然な様相を味わい楽しむ感覚が掃除であり、そういう営みの中に日本のラグジュアリーは宿るのかもしれない。

（原研哉『低空飛行』より、一部表記を改めた）

問いＩ　下線部（Ｉ）「持続可能性」について述べた文章として正しいものはどれですか。

A　「持続可能性」という言葉が広まる中で、地球という資源に限界があることが初めて知られるようになった。

B　「持続可能性」という言葉は殺伐としているので、この言葉を使用するのは完全に止めてしまった方が良い。

C　「持続可能性」という言葉からは、眼前の危機を食い止めるために必要な反省や対処を感じることは難しい。

D　「持続可能性」という言葉に近い考え方や感じ方を、元々人は持っていることを認識することも大切である。

問い２　下線部（２）なぜヒトは掃除をするのか とありますが、その理由として正しいものはどれですか。

A　掃除をすることは、自然と適切な関係を築きながら、生活するために必要なことだから。

B　掃除をすることは、自然を自分たちに都合よく人工的に整えるための手段になるから。

C　掃除をすることは、世界中の文化・文明に共通して見られる非常に感動的な行為だから。

D　掃除をすることは、今後も生き残っていくためのヒントを見つけ出すのに役立つから。

問い３　下線部（３）日本の庭 について述べた文章として正しいものはどれですか。

A　日本の庭は、茶の湯や生け花と同じく、日本の伝統文化に由来した技芸として認識されている。

B　日本の庭は、落ち葉や草木を自然の状態のままにしておくことで、心地よさを生み出している。

C　日本の庭は、やり過ぎないことが一つの考え方になっている点で、掃除と共通する部分がある。

D　日本の庭は、人々が管理する時間が長ければ長いほど、理想的な形で完成していく傾向にある。

問い４　下線部（４）日本の国際空港 について述べた文章として正しいものはどれですか。

A　日本の国際空港の清潔さには、海外の旅を終えて日本に帰ってきたことを思い出させてくれる効果がある。

B　日本の国際空港は、シミひとつない掃除を建物の隅々まで行き届かせようとする空気で満ちあふれている。

C　日本の国際空港の建物の質素さは、日本の掃除に宿るラグジュアリー感を引き立たせるのに役立っている。

D　日本の国際空港からは、人々がものを大事にしながら、非常に丁寧に掃除を行っていることが感じられる。

問い５　この文章で書かれている内容として正しいものはどれですか。

A　「人工」が自然に加えられた途端（とたん）、人間は心地よさを感じなくなってしまう。

B　日本の庭が完成するためには、しでかされた庭への人々の愛着も必要である。

C　日本では、掃除は砂浜に打ち寄せる波のように行うのが良いと思われている。

D　掃除に関する日本人の考え方は、世界中の人々にもっと知られるべきである。